（資料４）

|  |
| --- |
| 　ユニセフ親善大使として最初に訪れたのは、アフリカのタンザニアでした。少し前は、一日に六百人くらいの子供たちが、タンザニアで死んでいました。 　飢えは、考えていた以上に恐ろしいもので、赤ちゃんの時にちゃんとした栄養が与えられないと、六歳でも地面をはったままで満足に歩けない。母親も栄養失調で、母乳が出ないからです。粉ミルクもなく、子供は濁った水だけ飲まされているような状況でした。 　しかも、粉ミルクがあっても、泥水のようなもので溶かしているので、それを飲んだ子が下痢を起こして、死ぬこともあります。干ばつで、木もはえていないから、煮沸するにも、火もおこせないのです。　栄養失調の子供は、笑ったり泣いたりもしなくなる。ゼロ歳から三歳くらいまでの子がみな、一点を見つめてじっとして一人も泣いていないのは、本当に怖い光景でした。それでも抱き上げると、自分にやさしくしてくれていることが分かって、離さないんです。 　当時の大統領は学校の校長先生の出身で、大人も通える小学校を造った。それで、識字率は７０％以上になりました。本当に素晴らしいと思いましたけど、栄養失調なのに自宅から十六キロ離れた井戸へ水をくみに行くのが仕事で、満足に学校にも行けない子供たちもいました。  黒柳徹子さんの講演より |